~BPSD かな と思ったら~

- 適切な治療(薬物療法)や介護者・家族の対応で、改善することが可能です
- □ 急激な環境の変化は、本人にとって、 非常に負担です なるべく、夜間はそっと見守り、日中に 受診し、治療するように工夫しましょう
- □ 日頃からの相談や対応が大切です 【医療】精神科や認知症専門医などの かかりつけ医をもつこと

【福祉】地域包括支援センター等 の相談機関に相談すること

【生活】日中活動などの生活リズム、 安心した住環境づくり など

各種のサービス・相談機関を利用して、 残っている身体的機能を長く維持するこ とが大切です

認知症の BPSD (行動・心理症状) への対応

Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia

夜間・休日の緊急的な精神医療相談を以下の 窓口でも受け付けています

相談内容に応じて、助言や医療機関の調整を行います(埼玉県在住の方が対象です)

埼玉県精神科救急情報センター

048-723-8699

受付時間

平日(月~金) 17:00~翌 8:30 休日及び年末年始 8:30~翌 8:30

監修 順天堂大学大学院精神行動科学 教授 新井平伊

~夜間・休日に BPSD が あらわれたときのために~





BPSD とは

認知症の種々の「行動・心理症状」をいい、

Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia

の頭文字をとって略したものです

認知症の症状には

中核症状と

BPSD(行動・心理症状) があります

中核症状は、

認知症により、神経細胞の働きが低下することによって 直接起こる、認知機能障害のことです

~中核症状の具体的症状~

■記憶障害

(ごはんを食べたかどうかわからない、など)

■見当識障害

(日にちや時間、場所がわからない、など) などの認知機能の障害をいいます

BPSD (行動・心理症状) は

認知症患者にしばしば見られる 気分や行動上の変化、そして精神症状のことです 本人の身体的要因、環境的要因、心理的要因など 複雑に絡み合って症状が出現すると言われています

~BPSD の具体的症状~

■興奮

大声を出したり、物をなげる、など

■易怒性

怒りっぽく、かっとなりやすい、など

■行動障害

徘徊したり、ごみを集める、など

■妄想

何かが盗まれたに違いないと思い込む、など

■幻覚

幻視(人の姿が見える)や 幻聴(音や人の声が聞こえる)、など

■無為、抑うつ

意欲がなくなったり、気分が落ち込む、など

■人物誤認

夫や妻など身近な人に対して、「別人だ」と言う、 などがあります

もし、夜間・休日に BPSD があらわれたら~

あわてず、穏やかな気持ちで 接することが大切です

■室内環境を整えましょう

- 幻覚・錯覚は暗い場所で起こりやすいので、 電気をつけるなどして明るくしましょう
- なじみの物や家族の写真などを置いて、安 心できる環境を作りましょう

■本人の話しを否定せず、よく聞きましょう

• 「帰りたい」といった帰宅願望などは、頭ごな しに否定せず、本人の気持ちに共感してみま しょう

■ときには一緒に動いてみることも必要です

•「そこに誰かいる」「今から〇〇に行く」などは、否定せず一緒に確認したり、ぐるっと外を回るなど本人と一緒に動いてみましょう

~暴力や暴言について~

■危険物を遠ざけ、少し離れて見守りましょう

- ・イライラから人や物にあたったり、危険を感じるときは、距離をとって見守りましょう
- ・家族など身近な方に、症状が出やすい傾向に あるため、少しそばから離れて、家族も余裕 がもてるようにしましょう
- 好きな音楽や歌があれば、そっとかけてみる ことで、こころが穏やかになるかもしれません